

平成 30 年度 学校評価（中間評価と比較した）分析

（1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

各種指標結果

各指標に対応する生徒、保護者の質問項目において、「そう思う」、「大体そう思う」の肯定的な意見の割合について、

- ・「先生は教え方を工夫し、わかりやすい授業をしている。」生徒 83%、保護者 76% と高い割合であるが中間評価より下がっている。
- ・「授業中は先生の話をしっかりと聞いている。」生徒 86%、「子どもは授業中のルールを守って、落ち着いて学習している。」保護者 83% と高い割合で中間とほぼ同じである。
- ・「自分で予習や復習など家庭学習ができる。」「学校は家で予習や復習など家庭学習ができるように取り組んでいる。」保護者 57% と少しではあるが改善が見られた。
- ・「朝読書や図書室などで本を借りて、読書に積極的に取り組んでいる。」生徒 57% でやや改善が見られたが、保護者が 46% と低い割合であり、まだまだ改善が必要である。

分析（成果と課題）

授業において教員が工夫し、生徒同士で学習を広げる対話的な学習に取り組むことについては、生徒、保護者ともに取り組んでいると感じているので、授業改善の取り組みとしては成果がさらに出ている。しかし、家庭学習や図書室を利用して、自ら進んで学習したり、学習の中で生み出される疑問に対して探究的に取り組むといった、「自ら学ぶ力」という部分にはまだまだ課題が見られる。各教科において学校図書館を活用した授業に取り組んでいきたい。

「自分で予習や復習など家庭学習ができる。」「学校は家で予習や復習など家庭学習ができるように取り組んでいる。」保護者 57% という低い結果は、「家庭での自学自習の習慣化」に向けて、さらに来年度強化して取り組んでいく課題である。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

各種指標結果

各指標に対応する生徒、保護者の質問項目において、「そう思う」、「大体そう思う」の肯定的な意の割合について、

- ・「学級活動や学校行事に協力して取り組めている。」生徒 86%、保護者 85% と高い割合である。
- ・「人の嫌がることをしたり、言ったりしていない。」「子どもの人権意識を高める指導されている。」保護者 77% とやや数字的には下がっている。
- ・「生徒会活動や部活動で生徒の自主的な活動が行われている。」生徒 89%、保護者 87%

と高い割合である。

- ・「自分から進んで、あいさつをしている。」生徒 88%，「子どもはしっかりとしたあいさつをしている。」保護者 82%と高い割合である。
- ・「学校のきまりや公共のマナーを守っている。」生徒 93%，保護者 92%と高い割合である。
- ・「友達や家族を大切にしている。」生徒 95%，保護者 97%と高い割合である。

分析（成果と課題）

「学級活動や学校行事に協力して取り組めている。」「友達や家族を大切にしている。」いう質問項目は、生徒自ら充実した日常を実感し、家庭でも充実した内容の話ができるところは今年度大きな成果として捉えられた。しかし、「人の嫌がることをしたり、言ったりしていない。」「学校のきまりや公共のマナーを守っている。」という質問項目は、中間期と同様自分が思っていることと、相手の受け止め方は、差が生じるものなので、この質問項目では、肯定的な割合の数値に関わらず、常に課題を意識して受け止めていく必要がある。

（3）「健やかな体」の育成に向けて

各種指標結果

各指標に対応する生徒、保護者の質問項目において、「そう思う」、「大体そう思う」の定的な意見の割合について、

- ・早寝、早起き、朝食など規則正しい生活ができている。生徒 65%，保護者 67%とやや低い割合である。
- ・遅刻をしない、ベル着をするなど、時間を守ることができる。生徒 86%，保護者 64%と中間の時期と比較するとかなり下がっている。

分析（成果と課題）

遅刻をしない、時間を守るなどの質問項目に関しては、学校生活で学習に向かうために登校し、授業に向けてベル着をしようとする意識が高い点においては成果であるが、各家庭で、早寝、早起きを実践し、1日の学校生活に向けて必要なエネルギーを補給する朝食をとることにまだまだ課題が見られる。

分析を踏まえた取組の改善

生徒会の委員会活動を有効活用し、早寝、早起、朝食など規則正しい生活ができるように、委員会より生徒に啓発していく必要がある。また、遅刻、ベル着など、時間を守る意識についても委員会活動を有効活用し、取り組んでいく。

自分で時間の管理や身体の健康についても考える機会を持たせていきたい。

(4) 小中一貫教育の取組について

各種指標結果

小中合同研修会では、授業力向上に向けて、分科会にて、9年間を見据えた大まかな学習の流れを確認できたことは評価できる。

分析（成果と課題）

今年度は、中学校の教員が週に1度ではあるが、三小学校に算数の時間にT2で授業に入ることが出来た。小学校の児童の様子を知ることもできて、大きな成果が見られる。学び方や学習規律において、小学校と中学校の違いや子どもたちのつまずきの課題を分析することが出来たことを来年度以降にもつなげていきたい。

今年度は、3月に大塚小学校の3クラスに中学校の英語科の教員が出前授業に行かせていただきます。小学校も英語科が教科化になり、小学校から中学校への繋がりや教職員間でも教科の研修等の必要性を感じているところである。具体的な取組を通して、今後の課題を整理していきたい。また、来年度以降人的な配置があれば、三小学校にも行かせていただきたい。

(5) いじめの防止等についての取組について

各種指標結果

- ①学校いじめの防止等基本方針の内容について、教職員が理解することができた。
- ②全校集会にて、学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介した。
- ③「いじめに関するアンケート」及び「クラスマネジメントシート」の結果を受けて必要な情報共有を、学年会、職員会議などの時間を利用して行った。
- ④各種アンケートや教育相談、懇談会、保護者からの相談等で出てきた内容は、学年会、全体打合せ、職員会議を利用し、情報共有をした。

分析（成果と課題）

学校いじめの防止等基本方針について、教職員で理解を図るようにしているが、基本方針を踏まえた取組についての研修は今後の課題である。

学校のいじめ対策委員会のメンバーについて紹介をしたが、生徒の中に広げていかなければならない。

子どもたちは、自分のいじめに関することはなかなか話すことが出来ない状態であることを教職員は理解している。年3回行っているいじめに関する各種アンケートで出てきた情報については、共有することができたが、日頃より生徒の発する情報にアンテナを張り、いち早く情報を得て、早期の解決を目指していく体制をつくることが課題である。